



題字 井口 文章
再刊 第392号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：とうきょう総文の取材コースを紹介
中央委員会の1学期の公約達成度
二面：小平市ならではの魅力が詰まった
スポット特集！

肌で感じる「東京」の街

とうきょう総文新聞部門開催

8月1日(月)から3日(水)に、東京都千代田区にある三輪田学園高校で第46回全国高等学校総合文化祭の新聞部門が開催された。2日目に開催された交流取材では、11コースに分かれて東京各地の施設取材した。今回はその中の5コースを紹介する。

Aコース

Aコースの取材先は東京古書会館、神田神保町の古書店、明治大学博物館の予定だったが、新型コロナウイルス拡大により、感染防止のため東京古書会館と古書店への立ち入りが中止になり、明治大学博



右上から時計回りに深川江戸資料館、清澄庭園、新江東清掃工場、国立競技場

Bコース

Bコースは「東京の銭湯」の魅力をテーマに、1箇所目には稲荷湯もしくは於玉湯、2箇所目には東京都浴場組合取材した。ここでは、稲荷湯と東京都浴場組合について紹介する。稲荷湯が開業した1956年当時、家に浴室がない人の利用が多かった。しかし最近浴室がある家庭が多いため、家に来客があった時や1人暮らしの高齢の方、仕事や旅行の後に汗や疲れを取りに訪れる人がよく利用されている。

生徒会の課題は「公約未達成」

Table with 2 columns: Date, Event. Includes items like 'テスト期間中にコピー機の使用可能に' and '3年生卒業記念、クラス内装飾'.

会が昨年10月に発足してから早10ヶ月以上が経過した。生徒会は発足してからの課題として、他の委員会と連携を取りながら活動してきていることを目標に活動してきた。そのために行われた中央委員会の内部改革として、一年生の定員を削減して中央委員会の人員を削減することで少人数精鋭にしたことや役職の担当学年の変更が挙げられた。また、校内への取り組みの成果として、他の委員会と連携を取りながら活動してきていることを目標に活動してきていることを話した。

Eコース

Eコースの取材先は東京証券取引所と日本銀行金融研究所貨幣博物館だ。東京証券取引所は株式会社日本取引所グループ(JPX)が「個人投資家の裾野を広げる」というコンセプトで提供している世界有数の規模を誇る株式取引市場である。ここでは全面ガラス張りのマーケットセンターと



日本経済の中枢を担う

呼ばれる施設から、株式の売買における不正取引の有無を監視するなど、日本の経済を支えている。貨幣博物館は古代から現代まで、様々な種類や時代のお金が展示されている。この施設では貨幣や硬貨の展示のほかにも、お金が出来た経緯を円札に書かれているマイクログ文字を見ることができ、実際に手に取ってお金に触れることができた。

Iコース

Iコースは「江戸末期の暮らした東京の庭園」というテーマで、江東区の深川江戸資料館と清澄庭園を取材した。深川江戸資料館では、天保年間(江戸後期)1840年代の深川一画・佐賀町の町並みを実物大で展示した常設展示のほか、8月1日から14日まで同施設で開催されていた『大解剖!浮世絵木版画の世界』において、浮世絵に用いた木版の制作工程や現物の展示などを見学した。江戸時代の暮らしを体験できる。資料館に遊びに来た阿部真朱さん(9歳)と東間理央さん(10歳)と英虎さん(7歳)は、「猫が鳴くところや一日の移り変わりをみるのが好きで、楽しかったです。また来たいです」と笑顔で話した。

銭湯の魅力を発信している稲荷湯

次に訪れた東京都浴場組合では、近藤理事長から近年減っている公衆浴場の広報活動について話を伺った。具体的なPR事業としてはフリーペーパー1010と小冊子の発行イベントを開いており、入浴剤の種類はゆず湯などの季節剤からソフトクリームや花火などの奇抜なものまであるという。近藤理事長は「お年寄りに対しての企画は今まで多く行ってきましたが、これから若者人たちの銭湯離れを止められるよう、企画を頑張りたいです」と話した。

Jコース

Jコースが最初に訪れた新江東清掃工場は、国内でも最大級の焼却能力を誇るごみ処理工場だ。取材では、ごみ処理の過程を順番に巡り、効率的なごみ処理を行うための工夫が説明された。工場の職員の方は、仕事をしている中で感じるやりがいについて「公共事業として行われている地味な職業ですが、社会にとって欠かせないインフラとして必要とされていると感じています。そこにやりがいを感じています」と話した。またSDGsが取り込まれている中でプラスチックごみなどの量に変化があったのか伺うと「ごみの全体量におけるプラスチックごみの割合は変わっていません。また劇的な効果が出ていないとは言えない状況です」と話した。その中で私たちができることについて「まずは、

東京五輪の舞台を取材

研修取材は国立競技場へ
とうきょう総文の閉会式後、国立競技場で研修取材が行われた。この取材は国立競技場が開催するスタジアムツアーに参加する形で行われ、

を味わえる。次に向かったのはフラッシュインタビューゾーン。聖火トーチや表彰台での写真撮影や展示の閲覧が可能で、選手が実際に使用する更衣室やロッカールーム、陸上やサッカー選手のサインが書かれたサインウォールなどを間近で見ることができた。最後に向かったのは展望デッキ。客席の最上部にあり、スタジアム内を一望できるほか、スタジアム外の景色も見渡すことができた。



選手が試合に備えるロッカールーム

研修取材後に、今回のとうきょう総文新聞部門に参加した他校の生徒にインタビューを行った。神奈川県立大船高校の永山瑛都さんは今大会の感想について「参加していた高校の新聞の書き方がそれぞれ全く違い、感銘を受けました。その中で自分の新聞作成の知識をアウトプットすることで、これは木漏れ日の差す神宮の森を表しているという。最後に「ツアーでの様々な展示を通して選手の息遣いを感じていたより何倍も大きく感じてほしいと思います」と話して、設計の緻密さには感動しました。このスタジアムツアーは2022年4月から2022年3月まで行われており、な記事作りに取り組みたいと個人での入場も可能だ。ぜひ感じました」とこれからへの参加してほしい。 意気込みを語った。(香)

気分はまるでアスリートだ

その後、職員の方への取材が行われた。普段の国立競技場の用途について「スポーツイベントのほかにも、アーテイスティックライプに使われるフィールドに降りると色とりどりの客席を360度見渡すことができる。また、硬質ゴムでできたフィールドを実際に歩くことができ、選手の気分効果があるからです」と教えた。環境面においてどのような環境面があるかを知り、それを共有していくことが大事です」と話した。

むらさき草

今、地球の環境が破壊されていることは、多くの人々が知っている。海面上昇、酸性雨、ヒートアイランド現象... 私たちの身の回りは、日々様々な気候変動が起こっている。最近では8月2日に、日本気象学会が最高気温40℃以上の日を「酷暑日」、最低気温30℃以上の夜を「超熱帯夜」と呼称すると発表し、話題となった。十数年前まではなかったこれらの気候変動は、森林伐採などの人為的要因と火山の噴火などの自然的要因が密接に結びついて起こる環境変化の総称だ。これらの中でも特に深刻なのが、人為的要因に数えられる地球温暖化である。地球温暖化は、二酸化炭素やメタン、フロンガスなどの温室効果ガスが毎日発生させている温室効果ガスによって進行している。発生したガスは、大気圏に溜まることで地球を包み込み、地球から宇宙への熱の放出を妨げようとする。これを「温室効果ガス」と呼ぶ。温室効果ガスが増えることで、地球の気温が上がり、気候変動が起きる。しかしこれは単なる応急処置ではなく、「温室効果ガスの排出を抑制する」という根本的な課題の解決には至っていない。では、何が大切なのか。それは「私たち個人の行動を変えること」。いくつか例を挙げてみよう。例えば節電は、火力発電量を減らすこと、延いては火力発電時に排出される二酸化炭素を抑制することにつながる。また、小平市のように「週に一度は乗らないデー」を呼びかけて自動車の抑制により、排気ガスの削減を試みている自治体もある。案外、私たちの何気ない行動も気候変動対策に貢献できることがある。例えば、世界全体にまで届く「ここで、ウルトラマンが来た」という言葉を紹介したい(この作品は、ガイアの名の通り地球をテーマとした作品であり、環境問題がテーマの1つとなっている)。「地球には怪物がいて、ウルトラマンがいる。この美しい星を、私たちはもっと愛していきたい。私たち一人ひとりが行動をちょっと変えるだけで、気候変動に正面から向き合える。地球環境を守ることができる。節電・節水、菜食、エコドライブなど、身の回りには環境保護のツールがいっぱい。さあ、動くのは今だ。美しい星・地球を守るために。」(金)

今も平和を訴えている第五福竜丸

次に訪れた第五福竜丸展示館には、1954年にアメリカの水爆実験で被爆した漁船第五福竜丸の実際の船体と関連資料が展示されている。取材参加者に向けて行われた説明の中で学芸員の連沼佑助さんは「乗組員の中で最初の犠牲者である久保山愛吉さんの『原水爆の犠牲者は私を最後にしてほしい』という言葉は、私たちが毎日発生させている温室効果ガスによって進行している。発生したガスは、大気圏に溜まることで地球を包み込み、地球から宇宙への熱の放出を妨げようとする。これを「温室効果ガス」と呼ぶ。温室効果ガスが増えることで、地球の気温が上がり、気候変動が起きる。しかしこれは単なる応急処置ではなく、「温室効果ガスの排出を抑制する」という根本的な課題の解決には至っていない。では、何が大切なのか。それは「私たち個人の行動を変えること」。いくつか例を挙げてみよう。例えば節電は、火力発電量を減らすこと、延いては火力発電時に排出される二酸化炭素を抑制することにつながる。また、小平市のように「週に一度は乗らないデー」を呼びかけて自動車の抑制により、排気ガスの削減を試みている自治体もある。案外、私たちの何気ない行動も気候変動対策に貢献できることがある。例えば、世界全体にまで届く「ここで、ウルトラマンが来た」という言葉を紹介したい(この作品は、ガイアの名の通り地球をテーマとした作品であり、環境問題がテーマの1つとなっている)。「地球には怪物がいて、ウルトラマンがいる。この美しい星を、私たちはもっと愛していきたい。私たち一人ひとりが行動をちょっと変えるだけで、気候変動に正面から向き合える。地球環境を守ることができる。節電・節水、菜食、エコドライブなど、身の回りには環境保護のツールがいっぱい。さあ、動くのは今だ。美しい星・地球を守るために。」(金)

丸龍福五第

今、地球の環境が破壊されていることは、多くの人々が知っている。海面上昇、酸性雨、ヒートアイランド現象... 私たちの身の回りは、日々様々な気候変動が起こっている。最近では8月2日に、日本気象学会が最高気温40℃以上の日を「酷暑日」、最低気温30℃以上の夜を「超熱帯夜」と呼称すると発表し、話題となった。十数年前まではなかったこれらの気候変動は、森林伐採などの人為的要因と火山の噴火などの自然的要因が密接に結びついて起こる環境変化の総称だ。これらの中でも特に深刻なのが、人為的要因に数えられる地球温暖化である。地球温暖化は、二酸化炭素やメタン、フロンガスなどの温室効果ガスが毎日発生させている温室効果ガスによって進行している。発生したガスは、大気圏に溜まることで地球を包み込み、地球から宇宙への熱の放出を妨げようとする。これを「温室効果ガス」と呼ぶ。温室効果ガスが増えることで、地球の気温が上がり、気候変動が起きる。しかしこれは単なる応急処置ではなく、「温室効果ガスの排出を抑制する」という根本的な課題の解決には至っていない。では、何が大切なのか。それは「私たち個人の行動を変えること」。いくつか例を挙げてみよう。例えば節電は、火力発電量を減らすこと、延いては火力発電時に排出される二酸化炭素を抑制することにつながる。また、小平市のように「週に一度は乗らないデー」を呼びかけて自動車の抑制により、排気ガスの削減を試みている自治体もある。案外、私たちの何気ない行動も気候変動対策に貢献できることがある。例えば、世界全体にまで届く「ここで、ウルトラマンが来た」という言葉を紹介したい(この作品は、ガイアの名の通り地球をテーマとした作品であり、環境問題がテーマの1つとなっている)。「地球には怪物がいて、ウルトラマンがいる。この美しい星を、私たちはもっと愛していきたい。私たち一人ひとりが行動をちょっと変えるだけで、気候変動に正面から向き合える。地球環境を守ることができる。節電・節水、菜食、エコドライブなど、身の回りには環境保護のツールがいっぱい。さあ、動くのは今だ。美しい星・地球を守るために。」(金)

実は知らない？小平の魅力！

今年の1年生企画では3年ぶりに課外取材を行った。今回は「小平市の魅力」について紹介する。そこで、錦城高校がある小平市の様々な施設を7つに厳選。是非この機会に小平の魅力に触れてほしい。

(60回生共同取材)

丸ポスト日本一の町



ガスミュージアム(東門前)の丸ポスト

丸ポストは終戦後、物流が安定するようになってきた1949年から新しい鉄製ポストとして設置されてきた。「郵便差出箱1号」という正式名称を持つ丸ポストは、23区に5本しか設置されていないのに対して、小平市では令和3年時点で37本設置されている(うち使用不可ポスト5本)。小平市では高さ2.8メートルの「日本丸ポスト」の設置や丸ポストの形を取り入れた様々な商品の開発など、丸ポストの魅力を高める取り組みが行われている。

<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/005/005301.html>
是非一度見に行き、実際に活用してみたいはどうか。(白)

赤煉瓦洋館で学ぶガスの歴史

錦城高校から北に徒歩3分、新青梅街道沿いにあるガスミュージアムでは、明治時代に建てられた東京ガスの会社を移築復元した博物館だ。昭和42年に開設された「ガス灯館」では、文明開化の象徴となるガス灯やガス事業の歴史の紹介、文明開化の時代を描いた錦絵を中心に企画展示が行われている。また、ガス灯を実際に点灯する点灯実演が一日に3回行われており、あかりの移り変わりの説明を受けながら暗闇の中でガスのあかりを楽しむことができる。また昭和52年に開設された「くらし館」では「ガスと暮らしのヒストリー」をテーマに、ガスがあかりから熱源として使われるようになった明治時代の終わりから現代にかけてのガス器具と当時の生活の様子を、時系列順に展示している。また、各時代のコーナーでは映像での解説を見ることが出来る。スタッフの山下さんはガスミュージアムを訪れる人に向けて「ガスは最初あかりとして使われていたものだから、ことを知ってほしいです」と話している。また、各時代のコーナーでは映像での解説を見ることが出来る。スタッフの山下さんはガスミュージアムを訪れる人に向けて「ガスは最初あかりとして使われていたものだから、ことを知ってほしいです」と話している。



長い間小平を見守る赤煉瓦洋館

前、イベントが行われており、錦城高校の室内楽部が毎年行われるガスミュージアムのクリスマスコンサートに参加していた。最近ではイベントも再開し始めており、5月にはハーブの植栽をお客さんと共に行った。また、山下さんに小平市の魅力を聞くと「自然が豊かだけれども都会へのアクセスは悪くない点と、子どもが遊びながら学べる施設が多く子育てに向いている点だと思います」と話した。錦城生に向けては「近くにあります、ガスミュージアムのこと知らない、来たことがない人も多くいると思います。これから日が短くなって学校帰りの時間や帰りにガス灯のあかりが映る季節になるので、勉強や部活に疲れた時に見学に来てほしいです」と話した。

東京ガスネットワーク：GAS MUSEUM ガスミュージアム
ガスについてだけでなく様々な企画が楽しめるガスミュージアムを訪れてみてはいかがだろうか。(白)

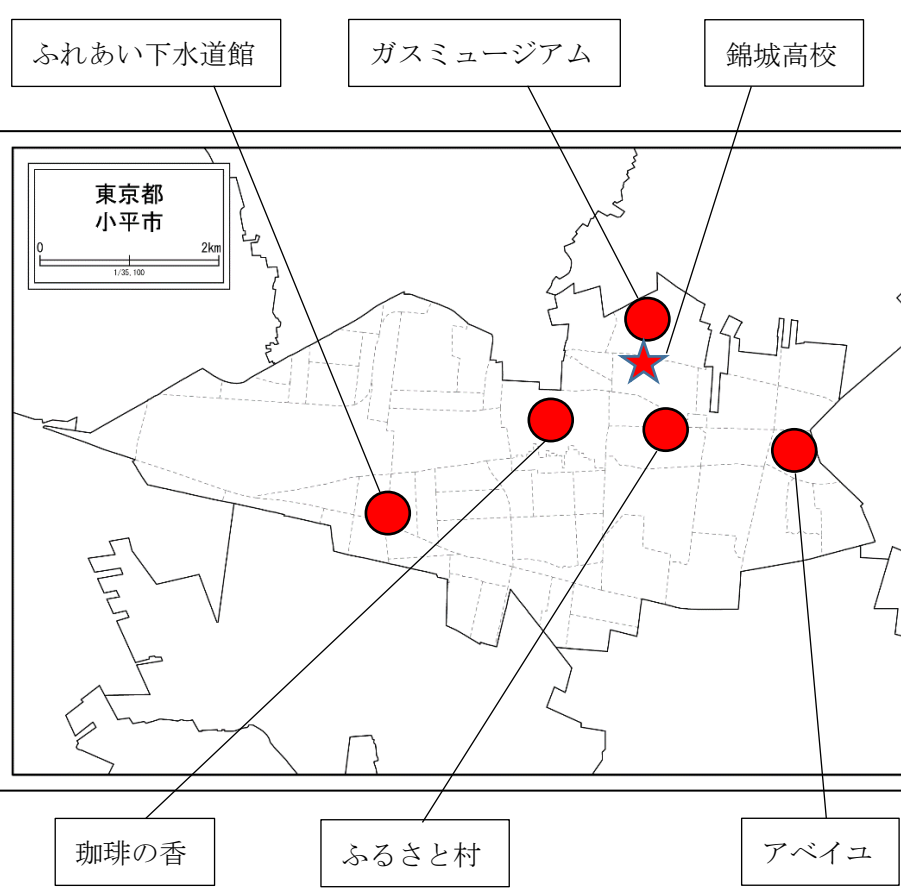
日本唯一の学びを小平で

鷹の台駅から徒歩10分、府中街道沿いにあるふれあい下水道館では、小平の下水道についての情報を知ることができるほか、実際に使われている下水道の中に入って下水道管内の様子を見学できる日本唯一の施設である。施設は地下5階から地上2階まであり、地下1~4階では下水道の歴史、仕組みなどが実物や映像を通して分かりやすく説明されている。団体客には下水がきれいになる仕組みについて実際に微生物を使用して実験し、説明しているそうだ。地下5階では実際に下水道管の中に入ることができ、中のおいを体験できる。他にも地下深くまで続く階段を利用して、地層の様子を観察することが出来るなど、来館者が楽しめる色々な工夫が施されている。下水道管の大きさは直径4.5m。都営地下鉄大江戸線のトンネルと同じ大きさだという。普段は16cmほどしか流れない汚水だが、雨が降ると徐々に水かさが増し、豪雨の時は下水道管がいっぱいになってしまう。この下水道管は23000世帯分、小平市の人口の3分の1に相当する生活排水を流しているという。このように大量の生活排水を流している下水道管だが、様々な問題を抱えているそうだ。例えば、タバコをマンホールに捨てたり、油を流したりしてしまうことによって下水道管中に汚れが蓄積してしまう。この問題を解決するために施設内には油を流さないように呼びかけるポスターがいくつも見受けられた。施設職員の渡部栄治さんは「大人も子どもも上水については知っているが、下水については知らない人が多いと思います。自分で使った水はどこで処理されているのかを知って欲しいです。知ることが環境問題を考えるきっかけになると思います」と語った。また錦城生に向けて「1人ひとりが下水道の使い方を学んで正しく使って欲しいです」と呼びかけた。



本物の下水道管に入ることができる

「小平市ふれあい下水道館【通常どおり】 | 東京都小平市公式ホームページ (city.kodaira.tokyo.jp)」
皆さんも一度訪れて下水道について学ぶきっかけを作ってみてはどうか。(白)



小平の魅力を広める

小平市には「地域宣伝隊コダレンジャー」というご当地ヒーローがいる。全国各地に数多くのご当地レンジャーがいる中で、唯一「市」によって作られたヒーローである。コダレンジャーは名物である丸形ポストを模した「丸ポストレド」で構成されている。ヒーローたちは地域のイベントやお祭りを中心に小平の魅力を伝えていく。今年8月2日(火)から7日(日)にかけては、10周年を記念した「コダレンジャー展2022(スペシャル)」が行われた。是非皆さんもコダレンジャーを通して小平の魅力を伝えてほしい。(鋼)

ふるさと小平の歴史を知る



旧小平小川郵便局舎

小平駅南口から始まるグリーンロードを東に20分、錦城高校からは歩いて30分程のところ、小平の歴史を感じられる小平ふるさと村がある。小平ふるさと村には、小平市有形文化財第1号の旧小平小川郵便局舎をはじめとした4つの小平市有形文化財がある。中でも、旧神山家住宅主屋は江戸時代に豪農が住んでいた家で、唐箕と呼ばれる脱穀するための道具や囲炉裏など、当時を連想させる様々な道具が置かれている。また、旧鈴木家住宅穀櫃は江戸時代後期に飢饉に備えるために作られた稗倉で、大人150人が1年間食べられる量の食料が貯蓄されていた。穀櫃を置ける家は少なく、当時村の役をしていた人しか置くことができなかったそうだ。穀櫃は干支の順に12個続いており、ふるさと村においてあるものは「子」だ。ふるさと村で働く小野光子さんは魅力について「実際に使われていた建物を見られることはもちろんですが、昔の懐かしい遊びや先生を招いた様々な教室が開かれているので、色々な世代が集まる憩いの場としても使えることです」と話した。錦城生に向けて「小平市は自然豊かな所なので若い皆さんには刺激が足りないかもしれませんが、せっかく学校が小平にあるので小平を自分のふるさとだと誇りに思っ、小平をみんなに広める人になってほしいです」と語った。[小平ふるさと村 \(kodaira-furusatomura.jp\)](http://kodaira-furusatomura.jp) (紫)

「今回の取材を通して錦城高校にただ通っているだけではわからなかった場所や歴史、市民の生活などを知ることができたので小平市の魅力を多くの人に伝えたいです」(鋼)

「小平市は、自然が多いと思いましたが、自然だけでなく魅力的な施設も多く、自然を楽しみながら様々な体験をすることが出来る素晴らしい場所だと感じることができました」(蛋)
「いつもと違う小平を見ることができました。珈琲の香は、とてもおすすすめです！皆さんも是非行ってください」(珠)
「今回は7つに厳選してしまいましたが、小平の魅力ある施設を紹介しきれず残念ですが、興味を持ってほしいです」(月)
「小平市の中でも学校から遠い場所があるか全く知らなかったのですが、今回の企画を通して皆さんの魅力的なものについて知れて良かったです」(紫)
「今回の紙面を通して皆さんに小平市の魅力が伝わると嬉しいです」(白)

編集後記

五感で楽しむ珈琲店



たくさんのスタンドグラスが

珈琲の香というお店が小平駅徒歩1分圏内にある。店内は職人がその場の雰囲気に合わせて作ったスタンドグラスと多種多様なカップ、小さなガラス細工で埋め尽くされ、天井には岩手県築200年の古民家の木をリサイクルしたものを梁として使用している。コーヒーカップは、ケーキ皿とセットになるように店員さんが選んでくれる。私たちは「珈琲の香」という名前のコーヒーとミルクレーブを食べた。ケーキには生花が飾られており、味だけでなく見た目も楽しむことができる。店のオーナーである永田景子さんは「高校生の時、自分がコーヒー屋を営んでいるなんて思わなかったです。自分が将来何をしたいかわからないので、自分が何をしようかと考えず、好きに生きてください！」と錦城生にエールを送った。[永田珈琲倶楽部：コーヒー、通販、小平、永田珈琲、豆売り \(nagatacoffee.com\)](http://nagatacoffee.com)
是非勉強や部活の息抜きを、珈琲の香で過ごしてみたいはどうか。(珠)

守り続けた味がある



パンの中につぶし餡が入っている『かめちゃんパン』

花小金井駅から徒歩約2分に位置するabeiuでは、手づくりのパンやケーキを楽しめる。昭和51年の創業から現在まで多くの地元の人々に愛され続けているそうだ。夫婦がお店を開き、45年間営業を続けている有我ヨシ子さんは「お店を開いてから4年経ったときに夫が癌でなくなり、閉店することも考えましたが、4年の間に夫が残してくれた味を守りたいという思いがあるから、今まで営業を続けられていると思います」と語る。そんな思い入れのあるabeiuでお客さんに人気な商品が「アップルパイ」と「かめちゃんパン」。アップルパイは生前、旦那さんが作り、今もその味が受け継がれている歴史のある商品だ。かめちゃんパンは可愛らしい見た目から子供に人気だそう。また、材料は安いものではなく、お客さんが安心して食べられる質の良いものを選んでる。有我さんは、錦城生に向けて「味と材料をよく吟味して作っているの、ぜひいらしてください」と話した。[花小金井商工会 HANAKOGANEI.NET / ショップガイド あべいユ](http://hanakoganei.net) (鋼)